

Kretschmer, Albert

Deutsche Volkstrachten, Original-Zeichnungen mit erklärendem Text. 2ed.

Lipzig, J. G. Bach, [1887-1890](1880) (文献番号 7-18)

Hiler p.510 Colas 1670 Lipperheide 741

クレッチマー著

ドイツの民族衣装；解説付き描画集

ドイツは、建国以来、様々な種族が集合体を形成し、19世紀後半までは数多くの領邦が分立しており、それぞれ歴史的要因や気候、風土の影響を伴いながら、極めて強い個性を維持してきた。民族服についても同様で、地方ごとに個有な型を示している。

本書は、ハンブルク、ブレーメン、メックレンブルク、ポメルン、シュレジェン、チューリンゲン、バーデン、バイエルン、ポーメン、チロールなどのドイツ各地方の民族衣装90図を華麗な多色石版画で示し、それぞれの図版には民族衣装の色、型、特徴及び用途などの解説を付している。初版は、1864年から1870年にかけて著者自ら収集、編さんを行い、1880年に刊行したが、広範な読者を得て、第二版が製作された。本書はその第二版で、初版の80枚に加えて新たに10枚、シュレース・ヴィヒ、ホルシュタイン、プロイッシュ・リタウエン、アルザス・ロートリンゲン地方が加わっている。図版は、ほぼ初版通りであるが、末尾にある農民服などの詳細図は省かれている。初版の解説にはドイツ語のものとフランス語のものがあり、フランス語の題は“Costumes du peuples en Allemagne”となっている。1977年には、本書のリプリント版か“Das große Buch der Volkstrachten”という題で刊行されている。



この図版は、バーデン地方、ライン川中流地域のキンツィヒタールとシャープバートの衣装である。青年が着ている黒い上着にはボタンがなく、燃えるようなまっ赤な木綿の裏地が付いており、チョッキも同じ赤で、金色のボタンが見える。シャツの衿は真すぐな立ち衿で、この地方では中流階層の人々は黒絹の蝶ネクタイを結ぶ。皮またはピロードの半ズボンは白いストッキングのひざのところで絞られ、郊外に出かける時はふくらはぎ(張脛)までとどく長靴をはく。女性の着ているブラウスは、衿と袖に装飾りがあり、衿は放射状に肩を覆っている。スカートは鮮やかな色の毛織物で、ストッキングは白、黒皮のくりぬいた靴をはく。頭にはリボンの付いた頭巾をかぶっている。